

平成二十九年 国語問題

【一】 次の各文の傍線部と同一の漢字を使うものをそれぞれ一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 血液ケン査を受ける。
ア ケン定 イ 危ケン ウ 経ケン エ ケン約
- ② ショウ極的なイメージを持つ。
ア ショウ去 イ ショウ像 ウ 表ショウ エ ショウ扱
- ③ 礼ギ正しくふるまう。
ア 会ギ イ 正ギ ウ ギ式 エ ギ牲
- ④ 大きな声でオウ援する。
ア オウ来 イ オウ用 ウ オウ米 エ オウ柄
- ⑤ 学校の保健室で身長をハカる。
ア ト書 イ ケイ算 ウ ソク定 エ 重リヨウ

【二】 熟語の読み方には「重箱読み（上が音・下が訓）」、「湯桶読み（上が訓・下が音）」、「上下とも音読み」、「上下とも訓読み」がある。次の中で他のものと読み方の構成が違うものをそれぞれ一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① ア 着物 イ 若葉 ウ 石段 エ 裏腹
- ② ア 秘密 イ 呼吸 ウ 演奏 エ 泥棒
- ③ ア 本物 イ 新作 ウ 無傷 エ 木目
- ④ ア 座敷 イ 友達 ウ 荷物 エ 場所
- ⑤ ア 仕事 イ 吐息 ウ 磁石 エ 台所

【三】 次の各四字熟語の空欄にあてはまるものをそれぞれ一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 暗（ ） 模索 ア 宙 イ 中 ウ 虫 エ 昼 オ 注
- ② 前代未（ ） ア 問 イ 門 ウ 文 エ 紋 オ 聞
- ③ 才色兼（ ） ア 美 イ 眉 ウ 日 エ 備 オ 尾
- ④ 興味（ ）々 ア 新 イ 進 ウ 津 エ 清 オ 深
- ⑤ （ ） 刀直入 ア 短 イ 端 ウ 反 エ 鍛 オ 単

【四】 次の各外来語の意味を後の語群の中から一つずつ選び、答えをマークしなさい。

- ① アイロニー
- ② シミュレーション
- ③ リテラシー
- ④ コンセプト
- ⑤ タスク

ア 基本概念 イ 作業課題 ウ 活用能力 エ 皮肉 オ 模擬実験

【五】 次の各文の傍線部の表現に用いられている修辭法を後の語群の中から一つずつ選び、答えをマークしなさい。ただし、同じ選択肢を繰り返し使ってもかまわない。

- ① ふと思ひ立って見上げると、そこには満天の星。
- ② 信じられない、彼女がそんな事を言うなんて。
- ③ 昨日のような嵐の日は、海が怒っている。
- ④ 君の笑顔は太陽だから、自信を持ちなさい。
- ⑤ 古くから言われているが、人生は羅針盤のない旅だ。

ア 擬人法 イ 倒置法 ウ 穩喩（暗喩） エ 体言止め

【六】 次の各文の傍線部と同じ意味用法のものをを選び、答えをマークしなさい。

- ① 北海道では雪が降ったそうだ。
ア 昔は手紙で旅の無事を伝えたそうだ。
イ 突然そう言われても困るだろう。
ウ そうか、もう卒業して十年か。
エ あの様子だとすぐにでも泣きそうだ。
② とてもさわやかな笑顔だ。
ア 日常は小さな幸せに溢れている。
イ 彼は豊かな表現力を持っている。
ウ 雨が降りそうな天気だ。
エ 夢のような一時を過ぎる。
- ③ 君と一緒にまた来よう。
ア さきほど電話をくれたようです。
イ まるで夢が叶ったかのようだ。
ウ 終わったら必ず片付けをするように。
エ 明日は新しい服を着て出かけようか。
- ④ 卒業式は体育館で行われる。
ア 彼女は素直で優しい性格だ。
イ 彼はすばらしい努力家である。
ウ その涙は真珠のようである。
エ 友達と駅の前でばったり会った。

- ⑤ あの話の結末はあつけない。
ア どんなに問い詰められても答えない。
イ 今は君と話している時間がない。
ウ それが嘘だとは思わない。
エ 慣れていないからぎこちない。

【七】 次に挙げる文学作品の中で他のものと作者が違うものをそれぞれ一つ選び、答えをマークしなさい。

- | | | | | |
|---|------------|----------|-------------|----------------|
| ① | ア 「舞姫」 | イ 「高瀬舟」 | ウ 「友情」 | エ 「雁」 |
| ② | ア 「門」 | イ 「黒い雨」 | ウ 「吾輩は猫である」 | エ 「三四郎」 |
| ③ | ア 「走れメロス」 | イ 「人間失格」 | ウ 「斜陽」 | エ 「或る女」 |
| ④ | ア 「金閣寺」 | イ 「地獄変」 | ウ 「羅生門」 | エ 「鼻」 |
| ⑤ | ア 「真夏の夜の夢」 | イ 「マクベス」 | ウ 「レ・ミゼラブル」 | エ 「ロミオとジュリエット」 |

【八】次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

よくわからないけど二十回くらい使った紙コップをみたことがある

飯田 有子

一読して、不思議な気持ちになった。「二十回くらい使った紙コップ」とは、なんてしょぼい。どうしてそんなモノをわざわざ短歌にするのだろう。そう思いつつ、しかし、心のどこかに妙に触れてくれるものがある。

作者の考えとか、作中主体である〈私〉の喜怒哀楽とか、だからなんだとかいいうことが、ここには一切書かれていない。唯一の思いと云えそうなのは「よくわからないけど」ってところだ。

何故「よくわからない」のか。「A」、「二十回くらい使った紙コップ」という存在自体が、作中の〈私〉にとって想定外だったのだろう。

これが「使い込まれた器」なら話はわかる。或いは「使い捨てられた紙コップ」でも。しかし、「二十回くらい使った紙コップ」は、そのどちらとも違っている。繰り返し使われた紙コップ、という①矛盾した存在感が奇妙なオーラを生みだしているようだ。

とは云っても、現実的にそういう状況はあり得るだろうし、それを a 生理的な感覚に従って「汚い」とか「貧乏臭い」とかいつて無視してしまうこともできたにちがいない。だが、作者はそうしなかった。

わざわざ短歌にした。「B」、「結びは「みた」ではなく「みたことがある」である。これによって、②一首は単なる報告以上のニュアンスを伴うことになる。或る日或るところでみかけたそいつのことを、作者はわざわざ思い出しているのだ。ここにはある種の感情移入があるんじゃないか。

でも、ほろほろの紙コップに対して、一体どんな思いを寄せるというのか。ここからは私の想像になるが、例えば、我々が年をとっておじいさんやおばさんになったとき、この「二十回くらい使った紙コップ」的な存在になるんじゃないか、という考えはどうだろう。

昔の老人はそうじゃなかった。経験とそこから得た知恵の裏づけが彼らに「使い込まれた器」の存在感を与えていた。しかし、我々はそうはなれないだろう、という予感がある。経験や知恵は蓄積されなのまま、単に年をとってほろほろになるだけの可能性が高い。③尊敬される老人にはなれそうもない。

これは心がけや努力の差ではない、と思う。昔は「紙コップ」なんてモノ自体が存在しなかった。「C」、自然に「使い込まれた器」になれたのだ。だが、我々は「紙コップ」を開発した。使い込むよりも使い捨てを、修理よりも買い換えを優先する社会システムを採用した。生活のなかで周囲のモノを次々に使い捨て買い換えておいて、自分だけは使い込まれていい味が出たモノになれると思うのは虫が良すぎるだろう。

ほろほろの紙コップの老人になった自分が、未来の若者たちから「よくわからないけど」と遠巻きにされるところを想像してしまう。そんな直感が、私をこの歌に立ち止まらせたのだ。

牛乳パックの口を開けたもう死んでもいいというくらい完璧に

中澤 系

このような歌の背後には④使い捨ての効率重視的な社会システムに同化した〈私〉が張り付いている。

保存、衛生、輸送、リサイクルなどさまざまな観点から b 試行錯誤を重ねた結果、「牛乳のパック」は現在のかたち⑤進化してきたのだろう。それでもあの「口」は決して開けやすいとは云えない。だから、それを「完璧」に開けることには達成感がある。「D」、そうは云っても、「牛乳のパックの口」を「完璧」に開けたくらいでいちいち「もう、死んでもいい」なんて思っていたら身がもたない。

だが、〈私〉は知っているのだ。この先何十年も「牛乳のパックの口」を「完璧」に開け続けたとしても、そこには未来は存在しないことを。そのスキルが、⑥おばあちゃんの知恵的な価値を生じることが決してないだろう。或る日、口開けシステムがより便利なスタイルに変更されれば、全く無意味な技になってしまうのだ。

システムに従い続けてほろほろの「紙コップ」になることになんとか抗う手はないだろうか。こんな歌を見たことがある。

あのこ紙パックジュースをストローの穴からストローなしで飲み干す

「紙パックジュース」を飲むとき、我々はパック側面に斜めに張り付いたストローをむしりとって、シャキーンと伸ばして、ブスツと刺して、チューチュー吸う必要がある。ジュースの残量が少なくなると、必死にパックを傾けて、なんとかストローを届かせようと苦心する。ずずずず。それでも底に少し残ってしまったって気持ちが悪い。

「牛乳パック」同様に「紙パックジュース」もまた進化のほぼ最終形態にある筈なのに、どうしてそんなことになっているのだろうか。

そんなとき、「あのこ」と出会った。⑦「ストローの穴からストローなしで飲み干す」野蛮さを〈私〉は眩しくみつめている。

出典 穂村弘「ぼくの短歌ノート」

問一 本文中の空欄「A」・「D」に入る語句を正しく選んだものを次のア～エの中より一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア A たぶん D もちろん
イ A かなり D おそらく
ウ A たとえ D どうして
エ A まさか D ちょうど

問二 傍線部①「矛盾した存在感」の意味内容の説明として、最も適するものを次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

- ア 本来は「使い込まれる」のが当然である器が、「二十回」も「使い込まれている」ことにおいて、逆に注目され、普通ではない、異様なものと思われるってしまうこと。
イ 本来は「使い捨てられ」て当然であるものが、「二十回」も「使い込まれている」ということで、そこに存在する実感や存在の重み、特徴や「味」を生んでいること。
ウ 本来は「使い捨てられる」ことによって発揮される機能が、実は、「二十回」も「使い込まれ」ても良い可能性を持っていることについて、誰もが気づかされること。
エ 本来、「使い込まれた」紙コップそのものは、あまり存在しない。その存在しないだろうと思われるものが、確かに存在するという可能性が、重要になるということ。

問三 二重傍線部 a 「生理的」・ b 「試行錯誤」の文脈上の意味を次の 1～6 の中より正しく選んだものを後のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

- 1 道徳や人が行うべき社会のきまり、言わば生きるための理論の上でという意味。
- 2 人間が本来持っている基本的な感情や最も素朴な知性の反応の上でという意味。
- 3 生きて活動する生き物として生じる本来の反応や現象、機能の上でという意味。
- 4 考えが的外れで間違いも多く、失敗しながらも、その中で学び成長するという意味。
- 5 様々な試みや行いをくり返し、失敗を重ねながら、目的に近づいてゆくという意味。
- 6 場合、場合によって最も必要なものを選び、必要でない物は捨ててゆくという意味。

- ア a の意味は 1 ・ b の意味は 5
イ a の意味は 2 ・ b の意味は 6
ウ a の意味は 1 ・ b の意味は 4
エ a の意味は 3 ・ b の意味は 5

問四 本文中の空欄「B」・「C」に入る語句を正しく選んだものを次のア～エの中より一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア B または C つまり
イ B ただし C なのに
ウ B しかも C だから
エ B よって C けれど

問五 傍線部②「一首は単なる報告以上のニュアンスを伴うことになる。」についての説明である。AとBに入れるのに最も適した組み合わせを次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

わざわざ短歌にした、言わば、短歌という表現行為によって作品にしなくてはならなかったことから言える事だが、ことに、末尾にある「みたことがある」という表現には、作者が或る日或るところでみかけた、そのものごとを何らかのきっかけや本人の抱いた「A」によって、「わざわざ思い出し」ていることを表す。つまり、作者は、その「B」の中のものである「ぼろぼろの紙コップ」を「見たことがある」という事実に対して、何か特別な「思い」を寄せているといえよう。もしくは、その「B」が、「心のどこかに妙に触れる」経験をしたのだと考えられる。このことから、この一文は、単なる事実を並べたり報告したりするだけの文ではなく、作者の「思いを伝える」、もしくは、ある種の思いが込められた、「A」移入のある「表現である」ということが言える。

- ア A 創作 B 想像 イ A 信仰 B 印象
ウ A 感情 B 記憶 エ A 関係 B 経験

問六 傍線部③「尊敬される老人にはなれそうもない」と言える理由として、最も適するものを次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

- ア 我々は、使い込むよりも使い捨てを、修理よりも買い換えを優先する社会システムを採用した。だから、我々には、経験や知恵は蓄積されなのまま、単に年をとるだけで、「経験とそこから得た知恵の裏づけ」による、「使い込まれた器」の存在感は得られないから。
イ 我々は、人生の様々な場面において得た知恵や経験によって、後から来る人々に経験を語り、知恵を伝えるということと、価値や存在感を自然と得る事ができる。しかし、若者はその経験や知恵を「よくわからないけど」と見過ごすことが多いと思われること。
ウ 社会の大半の人は「使い捨ての効率重視的な社会システムに同化」している。その様な中で、「私」だけが、「使い込まれていい味が出たモノ」として、社会や若者たちに認められるということはのぞめない。だから、ぼろぼろの紙コップ的な老人になると言うこと。
エ 社会の大半の人は「使い捨ての効率重視的な社会システム」を受け入れて、その便利さや快適さの中で生きている。今さら個人の経験や知恵を大切にし、そこから学ぼうとする、不便で面倒な事は認められないので、若者が老人を尊敬したりしなさいと思われること。

問七 傍線部④「使い捨ての効率重視的な社会システムに同化した〈私〉が張り付いている」と言う表現に最も関係の深いものを次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。
ア スキルが「おばあちゃんの知恵的な価値」を生じること。
イ 「より便利なスタイル」への変更を求め、受け入れること。
ウ 「システムに従って続けてぼろぼろの『紙コップ』になること」。
エ 「ストローの穴からストローなしで飲み干す」あの子の「野蛮さ」。

問八 傍線部⑤「進化してきた」の「進化」と、本文中逆の意味で用いられている語として最も適するものを次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

- ア 「存在感」 イ 「完璧」 ウ 「蓄積」 エ 「野蛮さ」

問九 傍線部⑥「おばあちゃんの知恵的な価値」と意味内容の上で最も関係の深い本文中の表現を次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

ア 心がけや努力の差

イ 試行錯誤を重ねた結果

ウ 使い捨ての効率重視的社会システム

エ 経験とそこから得た知恵

問十 傍線部⑦「『ストローの穴からストローなしで飲み干す』野蛮さを（私）は眩しくみつめている。」について、なぜ、私は「眩しくみつめている」のか、その理由と最も関係の深いものを次のア～エの中より選び、答えをマークしなさい。

ア 人間の素朴で素直な行動として、その言わば「野蛮さ」の中に、社会システムに従い続けない、「なんとか抗う」姿であるような、特別な魅力を感じたから。

イ 保存、衛生、輸送、リサイクルなど、生活のさまざまな観点からの進化。その最終形態であるものの持つ不具合や不快感に気付き、対象に関心を持ったから。

ウ 「使い捨ての効率重視的な社会システム」の行き着く先にある人間の姿。その無残さや醜さ、みすばらしさとは対極にある、若さや素朴さに心をうたれたから。

エ 日常生活の中で、身につけたささやかな、それぞれの「スキル」が「無意味な技」になってしまふ。使い捨てのシステムに対し、切なく残念に思われたから。